

## 2年目の遠隔授業

伊 藤 圭 一

### 1. はじめに

コロナ禍における遠隔授業が2年目に入った。昨年の第一波を受けて、急遽始まった遠隔授業であるが、2021年4月、対面授業で始まったかのように思えた新年度も途中から第四波の影響を受けて遠隔授業を導入することになった。学生の人数が50%を満たす目的で行われるため遠隔授業の曜日が学科ごとに指定されており、2020年度前期と同じ科目が遠隔授業の対象となった。2年目、同じ科目を振り返りながら授業計画を立て実践していくことで、より良い遠隔授業が構築されるのではないかと考えた。2年目の遠隔授業に取り組むことをチャンスととらえより良い授業を目指して工夫していくことを目的とした。遠隔授業は「最低だ」という教員もいる中、「本当に最低なのか」を検証しながら進めていく意図をもって取り組んだ。

昨年度も遠隔授業の対象となった「基礎教養Ⅰ」にターゲットを絞り、学生に意見を聞きながら改善を図っていく手法を取った。遠隔授業が学生の反応や雰囲気、対面授業に比べてどうしても劣る部分を発見してどう補うかを考えて改善をしていく。どうしても対面授業にはかなわない部分と同じように遠隔授業でしかできないものも

あるはずである。その部分を学生の意見も交えて考えていく。新たな取り組みを通じて得た学生の反応なども分析していく。対面授業は学生の雰囲気を見ながら進められるのが利点と言われている。また、教員が目の前にいるから真面目に聞くという意見も見られる。遠隔授業はどちらも欠けているので、根本的に対面授業に劣るという意見がある。対面でないからこそ、遠隔授業だからできることを見つけることにより、遠隔授業の良いところが在宅で受講できること以外にも存在することを見つけることができるという期待を持っている。

### 2. 遠隔授業と対面授業

#### 2-1 基礎教養Ⅰ

今年度（2021年度）も遠隔授業の対象になったのは「基礎教養Ⅰ」であった。「基礎教養Ⅰ」は下記の通りの授業である。

「基礎教養Ⅰ」では二つのことを身につけることを目指している。

第一に履歴書やエントリーシートなど、手で書くことを求められる書類についての基礎知識を学ぶ。こうした書類は読みやすい文字を書くことが要求される。そこで硬筆書写技能検定を学びながら、文字を誠実に書くことを身につける。誠実な文字は相

手に誠意を伝えることができる。誠実な文字を身につけることが社会人基礎力につながる。第二は書くことで自分をアピールしコミュニケーションを学ぶことで相手との関係を良好にすることを学ぶことを目指している。実技を含んだ講義であると言えるのが「基礎教養Ⅰ」である。

## 2-2 学生の遠隔授業に対するとらえ方

「基礎教養Ⅰ」を受講する学生に遠隔授業について中間アンケートに感想を書いてもらった。<sup>1)</sup>

メリットを挙げると以下の通りである。

- ・通学時間がかからない
  - ・かからないので、自分の時間が増える
  - ・起きてすぐに、参加できる
  - ・パジャマのまま参加できる
  - ・自律的に勉強するようになる
  - ・交通費がかからない
  - ・ペーパーレス
  - ・どこからでも参加できる
  - ・わからないことをすぐに調べることができる
  - ・色々な学習素材がある
  - ・タイピングがはやくなった
- 一方、デメリットは以下の通りである。
- ・集中力が必要
  - ・目や腰が疲れる
  - ・勉強するという雰囲気がない
  - ・課題が多い
  - ・聞きたいことが聞きにくい（自分の質問がみんなに聞こえてしまう、チャットで質問するのは、仰々しい気がする）
  - ・コミュニケーションの機会が減る

- ・先生に質問することが気軽ではない
  - ・電波に左右される
  - ・運動不足
  - ・友達に会えない
  - ・物の貸し借りができない
  - ・授業時間を忘れる（チャイムなどで教えてくれない）
  - ・連絡がわかりにくい
  - ・課題の管理が大変
  - ・実際に体験することができない、実技ができない
  - ・カメラを切る人が多いから、学生が何をしているかわからない
  - ・反応しにくい、反応がわからない
  - ・雰囲気や空気が伝わりにくい
- こうした声を対面授業についてまとめると以下の通りである。
- ・同級生に会える
  - ・図書館などの施設が利用できる
  - ・大学に通っている実感が湧く
- 以上のことがあげられる。
- 一方で対面授業のデメリットは以下のことが考えられる。
- ・交通費がかかる
  - ・授業の切り替えが大変
  - ・移動時間のロスが生まれる
  - ・感染リスクがある（通学時間や授業時間）
- そこから、オンライン授業についてまとめると以下のようになる。
- 時間効率が良い  
交通費がかからない  
感染リスクが無くなる
- 一方でオンラインのデメリットをまとめる

1) 2021年5月27日実施。本アンケートは、講義の一環として実施した。回答は任意であり、回答内容によって利益・不利益がないことを事前に説明した。このアンケートの記述を公開することは学生から承諾済である。コメントは個人を特定できる部分は修正をしている

と次のようになる。

- ・同級生に会えない
  - ・授業の質が下がる
  - ・大学生活らしくない生活を送る
- ということが挙げられる。

### 2-3 教員にとってのメリット・デメリット

この授業経験を通じて考えられる教員のメリット、デメリットについてまとめてみた。まずは教員のメリットを挙げると次のようになる。

- ・コロナ禍でも授業を進められたため、今後の日程に余裕が持てる
- ・対面授業と遜色ない授業ができた/学生とつながっていることを実感できた
- ・画像を作ることは大変だが、復習の手間は省ける
- ・板書にかかる時間が省略でき、その分の時間をほかのことに使える

一方、教員のデメリットは次のように考えられる。

- ・学生の様子がじかに見られない
- ・学生がどれだけ理解しているかが、確認できずに進んでしまう
- ・知識のみの教え方になってしまい、思考を伴う授業になりにくい
- ・課題を出せるのはよいが、作るのにかなりの時間がかかる

というものである。

デメリットの多くは、初めての体験での負担増が原因になっている。

### 2-4 ハイブリット型も視野に入れるべき

学生たちが感じるオンライン講義のよい点として目立つのが「通学時間（費用も含め）がかからない」というものである。オンラインによって通学時間や費用の負担減

となったといえる。「自分のペースで学習できる」も目立っている。大人数の対面型講義の場合、一人ひとりの理解度を確認するのは難しいと言える。その点では、オンライン授業ではチャット機能で質問ができるので置いていかれている気持ちにはならないのであろう。一方で、対面授業では、質問を授業中に投げかけるのは難しいため、理解できていない学生がいても講義は進んでいくことになる。ほかに良い点として「自宅で学習できる」「教室移動がない」「私語がない」「復習が何度でもできる」などがよい点として挙げられている。こうしたオンライン講義のよい点として挙げられたものは、見方を変えると、対面型講義への課題にもつながると考えられる。オンライン講義にも課題はある。教員とのコミュニケーションについて減ったという声もあり、オンライン講義でいかに学生とのコミュニケーションを取るかという課題が明確になった。また、オンラインが劣る点として、アンケートでは「自宅だとほかの誘惑に負けそうに授業に集中できない」「（ネットワークやデバイスの不具合等で）音声や動画が途切れて聞き逃すことがある」「ほかの受講生とのディスカッションや交流が少ない」なども挙げた。オンライン講義への希望や評価は高いものの、学生が対面型講義を希望している科目もある。演習科目では学生が対面型を希望している。これは、教員やほかの受講者との密接なコミュニケーションを取りたいという希望があるものと考えられる。大学生活には、サークル活動や学友との交流など、講義以外の活動の意義も大きい。オンライン講義が続いたことで、ほかの学生の学習の進み具合や就職活動の進み具合がわから

ず、不安を抱えている学生もいることがわかっている。加えて、教員も不慣れだったために対面講義ほど理解が進まなかったという学生や、学費に対する指摘も上がっている。萩生田光一文部科学大臣は、7月21日に行われた定例記者会見で「遠隔授業を継続する場合においても、効果的な対面授業との併用等を検討していただきたいと考えております」と発言している。「後期も全面オンラインで」と決めてしまうのではなく、状況に応じた柔軟な対応を各大学に求めた。9月15日、文部科学省が発表した「大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査<sup>2)</sup>」に大学の授業実施方針について取り扱った項目がある。7月1日時点の講義の形式は「遠隔と対面の併用」が60.1%、「全面遠隔」が23.8%、「全面対面」が16.2%だったのが、後期授業の方針については、80.1%が遠隔と対面の併用を予定しており、全面対面が19.3%、その他が0.6%と、ほぼすべての大学が対面を予定していることがわかった。萩生田文科大臣は10月16日、「この調査において、対面授業の実施割合が全体の半分未満となる予定と回答した大学等（約380校）を対象に、大学等の名前を含めて結果を公表することを前提として、後期における実際の授業形態や、授業形態について学生が理解・納得しているのかなどを調査し、現状を把握したいと考えております」と述べている。文科省も、大学生の学びの機会をしっかりと確保しようと乗り出す中、各大学はどのような選択を行うのか。コロナ禍によって突

然始まったオンライン講義によって、オンライン講義と対面型講義のそれぞれのメリット・デメリットも明らかになった。この知見を生かし、オンラインと対面型それぞれの強みを生かしたハイブリッド型など、新たな大学の姿を模索していく必要があるだろう。「対面授業と遜色がない」「生徒の様子が見えなくなる」と意見が分かれる理由は、オンライン授業の形態にもよるだろう。録画方式のオンデマンド方式なのか、リアルタイムの双方向での授業形式なのか、それによって臨場感や反応の把握状況には当然違いが出てくる。遜色がないと見られなくなる不満と意見が二つに分かれる状況である。

## 2-5 オンライン授業とオンデマンド授業

ここで、オンライン授業とオンデマンド授業の違いについて説明をしたい。

まず、一般的な遠隔授業、オンライン授業は「メディアを利用して行われる授業」として定義されている（大学設置基準第25条2項）。こうした授業に対しては「同時性又は即応性を持つ双方向性（対話性）を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められるものであること」が求められている。そのうえで、同時（リアルタイム）、非同時（オンデマンド）が可能とされている。遠隔授業の中でライブ配信とオンデマンドに区別をすることができるのである（本学ではオンデマンド授業は許可されていない）<sup>3)</sup>。

まだ正課の講義では認められていないが、

2) 全国の国公私立大学（短期大学を含む）及び高等専門学校を対象に：令和2年8月25日～9月11日の期間に各大学等の本年度後期等の授業の実施形態等について調査し、全国の状況を把握するために実施された調査。

3) 第9回中央教育審議会大学部会質保証システム部会「オンライン授業に係る制度と新型コロナウイルス感染症の円強による学生等の学生生活に関する調査」2021年7月7日

外部向けの公務員講座などではオンデマンド授業を導入している。先ほどのようにオンデマンド授業とは、オンライン配信の一種である。教員が授業内容などをあらかじめ録画しておいて、学生はその録画された授業をいつでもどこでも時間指定や場所を選ぶことなく勝手に見ることができる形態である。録画授業なので、教員と学生のやり取りなどはリアルタイムにはできない。分からないところがあつたら、違うシステムなどで質問するという形になる。

わからないところをすぐに質問することができないというデメリットはある。しかし、聞き逃したところを繰り返し見直すことができるので理解が深まるとも言え、その点はオンデマンド授業のメリットといえる。

そして、録画だからいつでも視聴できるという特徴から隙間時間を活用でき、自分でカリキュラムを作成することもできるので、自主学習が進むと考えられる。

こうした特徴から、対面授業と同じように、やる気があるかないかで左右されるとも言える。

一方のライブ配信型の授業は、教員がインターネットを通じて、パソコンやタブレットから音声や動画などでリアルタイムに授業を配信し、学生はその配信された授業を視聴し授業に参加する形態である。そしてツウエイコミュニケーションを取ることができる。そのことから、メリットは、対面の授業と同じ様な臨場感を感じられることや、対面の授業同様にリアルタイムに質疑応答を行える、そしてコミュニケーションをはかりながら授業を進められることである。学生の表情を見ながら授業を進められるので、理解度なども確認しながら

授業を行える。さらにリアルタイムで配信されるので、最新情報を盛り込むことができる。オンライン授業は、教員と学生や学生同士の意見発表が求められる授業や実技系の授業に向いている。

教員だけでなく学生側もオンライン配信でスムーズに授業を配信する、もしくは受信するには、インターネット環境を整えておく必要がある。

オンライン授業とオンデマンド授業の違いは、双方ともインターネットを介して配信されるが、リアルタイムか録画かということである。

それぞれがメリットを持っているので、授業の性質や対象に応じて使い分けるのが望ましい。

オンライン授業は、リアルタイムに受講できること、双方向コミュニケーションが取れるので相手の様子がわかりやすいということ、学生もわからないことなどはその場ですぐに質問することができるので消化不良感はないこと、先生も理解度を確認しながらフィードバックできることがあげられる。

意見交換が必要な授業や実技系の授業に向いている。オンデマンド授業は、好きな時間、タイミングで受講できること、何度でも見直すことができるので復習を繰り返ししやすく、理解が深まりやすいといえる。知識をインプットする授業に向いている。

しかしオンデマンド授業の場合、毎回の授業ごとに、その授業目標に到達できたかどうかの理解度の確認を行う必要がある。

その場で確認やフィードバックすることができないので、「課題」や「小テスト」などを提示しながら、学生の理解度をはかるなど、より手をかけて授業を組み立てる

ことも求められる。

このようにオンデマンド授業とオンライン授業共に工夫をしていけば対面授業と同じような効果を得られる期待ができる。

しかし、当初、対面授業よりも低く見られているこうした遠隔授業も2年間、続けることによって対面授業と遜色のない状態にまで伸びてきている。

そんな中、「遠隔授業は最低だ」という発言を聞いた。なぜなら「わからない学生はそのままになり、学生の知識の格差が広がっている」との説明だった。私は遠隔授業に対して、対面授業とそれほど遜色ない手ごたえを感じていたので疑問に感じて聞いてみた。確かに学生の立場に立ってみると大学に入学して「初めて聞く難しいこと」をオンラインの授業で聞き理解するのは大変だと想像することができた。

教員が自分のペースで進めて講義をおこなってしまう。「あ、わからない」と思ってもそのまま、講義は進んでいく。対面授業であれば、教室の雰囲気や表情で教員は立ち止まるであろう。それが無い状況は苦しいであろう。オンラインでのライブ授業で対面感を出すのは大切であるが「録画がしてあり何度も見られる」オンデマンドの遠隔授業も大切であると感じた。オンライン授業を録画するという方法でもよい、教員と学生に物理的な距離があり、授業がそこで止まらないのであれば、機械的に止めることができ、再度、聞きなおすことができるオンデマンドの授業の方が効果的である内容も存在する。教員側としては最適な授業を提供したいので、オンライン、オンデマンドの選択ができるようになっている

ことが望ましい。

加えて、板書には板書の魅力があり、パワーポイントやホワイトボード機能には代えがたいのでその点からも発信会場の確保も重要になってくることも付け加えたい。

### 3. これからの遠隔授業

#### 3-1 対面・遠隔リレー方式

今年度は対面授業で開始し、途中6回分を遠隔授業で行い、最後3回を対面授業で行った。基礎教養Iという講義で内容は硬筆書写を中心とした美しい文字の書き方を学ぶ講義である。文字を書くことを伴うので実技が基本である。今年度の特徴は遠隔授業が曜日限定であり、学生は登校する日がある状況であることである。配布物、提出物をどうするかと悩む必要が無く、提出ポストを作るだけで解決した(Google Classroomも使用しているが手書きのものを提出するには不向きである)。



#### 3-2 遠隔授業ならではの積極性

美しい文字を書くことがテーマの講義であるから、良い作品をお互いに見て感想を共有することはとても重要である。昨年度は実施できなかったが、今年度は、Google Classroom上で作品展を4回実施した<sup>4)</sup>。学生の評判も上々で、お互いの作品の感想を述べあううちに新たな発見があったようである。ずっと、作品を掲示することができる点、気の向いたときに気が済むまで眺め

4) 2021年6月3日実施。資料使用の学生に承諾を得て使用。

ることができることがメリットである。作品展に参加したいという学生も回を重ねるたびに増えていった（初回は模範的な作品のみ掲示したが、2回目からは展示をして意見をもらいたいという希望のある学生をすべて掲示することにした）。この状況は対面授業ではない効果だと考えられる。直接、対面授業の空間で「自分の作品も掲示して欲しい」とはなかなか言いにくくことであり、直接出会うことのない空間での「遠隔授業ならではの積極性」ではないだろうか。作品に対しての感想も挙手して授業で述べることは無いだろうと思われる積極的な発言、踏み込んだ発言が多く見られた。

学生の作品への感想を一部紹介する（学生の許可を得て紹介している。相応しくない表現も臨場感を伝えるためにそのまま掲載している。2021年6月3日に実施した）。

- ・行間で書かれていて、連綿を使われていて、見本みたいな字だと思いました。昔から習っている人なのかなとも思いました。自分は行書が苦手なので見習いたいです。
- ・バランスがとても良くて見本みたいな字だと思いました。連綿も使っていて上手いなと思いました。はね、はらいに迷いがなく真面目な方なのかなと思いました。自分は行書が苦手なので見習いたかったです。
- ・連綿を使っていて、字の大きさやバランスも綺麗で見本かと思いました。
- ・上手すぎて嫉妬の感情が湧きました。ひらがなの繋げ方、間隔のとり方、空白のとり方などすごく参考になると思った。
- ・読みやすい。内容が入りやすい。何より綺麗。

几帳面そう。

- ・お手本のように驚きました。まず、字がとても綺麗ですし、行間や文字のバランスも整っていて美しいなと思いました。全てが綺麗で憧れますが、特に「ございます」の連綿と「申し上げます」の部分が好きだなと思った。
- ・文頭や文末が行ごとばらばらだったので次回はそこにも注目して取り組もうと思います。又、まとまりとして見るとバランス良く書けていますが、一文字一文字を見ると上手いかなかったものもありました。連綿にしよう意識し過ぎてしまったからだと思うので、意識し過ぎないようにも気をつけたいと思いました。字の大きさや止めはねはらいなど、基本的なことはできていたと思うので次回は細部を気にして行おうと思います。
- ・お手本のような美しさで、とてもキッチリとした丁寧な文だと思いました。バランスもよく、本当に読みやすいと感じました。キッチリとした日本人だとイメージしました。
- ・筆で書いているようで教科書にありそうなお手本のような行書だと思いました。流れるような線でしっかりとつながっていてバランスも良くとても見やすいです。書道でもやっているくらい自然に溶け込んだ字です。
- ・行書でとても丁寧に書いてあり、私もこのような字が書けるようになればいいなと思いました。縦もすごく揃っていて、凄いなと思います。
- ・パッと見てすごいと思いました。余白のバランスが良く、連綿が上手だなと思いました。

以上が代表的な感想である。ネット上でじっくり、好きな時に鑑賞をして感想を書くことができるので、しっかりとした記述になっていた。資料1<sup>5)</sup>としてこの作品を挙げておくので見ていただきたい。学生が書いた感想と同じことを思い浮かべるはずである。そうしていただくと「遠隔授業ならではの積極性」に気が付かれると思う。

### 3-3 意外と重要な機器の配置

遠隔授業が各大学で始まり非常勤として出かける大学でも遠隔授業を教える側として体験するようになった。ZoomやMeetといった配信方法の違いよりも実は、配信用のパソコンの置き場所が講義をする教員にとっては大切であることが実感できた。それは、教壇にあるパソコンが単なるPowerPoint呈示用のパソコンであり、配信を行うパソコンは教室の一番後ろに設置されている状況に遭遇した時である。一度、授業が始まってしまうと、自分姿はもちろん板書がどの程度、映っているのかもわからず、チャットの確認にもその都度、後ろにまで行かなければならない状況であった。Zoomの契約の都合と伺ったが、遠隔授業にはある程度の投資も必要であると実感した。同時に、遠隔授業だから学費を返還せよなどという主張も見られるが学校側は遠隔授業実施にかなりの投資を行っていることも体験することができた機器の配置であった。遠隔授業には投資が必要であることを学生に説明をする必要があると考えられる。

## 4. これからの課題

遠隔授業を実施するとなると、現場には想像以上の負荷がかかる。技術力の向上に対するバックアップも必要である。加えて、教員が個人で授業に臨むのではなく、チームでの戦略として捉え、資料作成などベースとなるテンプレートの活用や平準化を行っていく必要があるのではないだろうか。そしてオンライン授業への良い点は対面授業に求められている提案とも理解すべきである。

コロナによるオンライン授業での対応は、確かに数多くノウハウや経験が培われたこともまた事実である。それは次代へ繋ぐべき貴重な教育資産であると言える。このまま一過性のものにしてしまうのは、未来に対する損失である。

旧来の常識と、それに代わるかもしれない新しいスタンダードが出てきたとき、学校や教員はその真価を問われる。時代の求めに応じて柔軟に変化を受け入れるのか、かたくなにそれを拒み現状維持を旨とするのか、曲がりなりにも学生たちに「不確実な未来に適應できる、生きる力」を求めるのなら、教員がその範を示さねばならない。「強い者が生き残るのではなく、変化に対応した者が生き残る」という言葉どおり、私たちは今まさに、進化の分岐点に立っていると見える。そう、教員全員が認識することが一番の課題ではないかと考える。

5) この作品は授業の一環としてweb展覧会に出展した作品である。その後、使用学生に承諾を得て使用した。